

くりのみ広場

くりのみ広場 令和6年春号 (No.65)

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

発行責任者：大崎年史

★ 春号のキラキラ★さん

毎号 元気に輝く利用者を キラキラさんとして 紹介します！
春号は 能勢くりのみホーム のキラキラさん です。



まだかな？



おやつ時間！



おまたせー！



いただきまーす



index

年 頭 所 感	理事長による今年度の事業方針です	P2～3
事 業 所 め ぐ り	くりのみ園・セブン&チェリー作業所の様子です	P4～5
職 員 コ ラ ム	あたたかさのバトン 3年目スタッフの思い	P6～7
新人職員紹介・寄付紹介・ひとこと		P8

『事業は人なり』、中核的人材の育成に励む年度に……

社会福祉法人四幸舎和会

理事長 大崎 年史

新年度を迎えました。法人スタッフ一同あらたな気持ちで、利用者支援に取り組んで参ります。

さて、令和6年度の障がい福祉サービス等の報酬が改定されました。今回、国が示した方向性は大きく以下の三点になります。

- I 障がい者が希望する地域生活を実現する地域づくり
- II 社会の変化等に伴う障がい児・障がい者のニーズへのきめ細かな対応
- III 持続可能で質の高い障がい福祉サービス等の実現のための報酬等の見直し

令和4年8月、国連の障害者権利条約に関する対日審査で指摘を受けた内容が報酬改定にも反映されており、それに沿った事業運営が今後求められていきます。

当法人は国が示す方向性に既にシンクロして運営しています。具体には、第Ⅲ期事業計画における女性ホームの立ち上げ、また、地域での受入れが困難な強度行動障害を有する方を支援するため、コンサルの力も得ながら中核的人材の育成を始めているところです。

今後の事業運営には、適材適所にスタッフが配置できるかが非常に重要です。人材確保が困難な中、ここ数年、スタッフの休職が毎年複数人（多い年は3名）出ている状況で、大いに危惧しています。休職者の殆どがくりのみ園やグループホームなどの施設系・居住支援系サービスに従事するスタッフです。既にメンタルヘルスに関する研修を法人研修として位置づけ毎年開催していますが、研修するだけが解決策ではないことは充分に理解しています。

パナソニック創業者の松下幸之助さんの有名な言葉で、『事業は人なり』があります。その内容は、「どんな経営でも適切な人材を得てはじめて発展していくものである」、「いかに立派な歴史、伝統を持つ企業でも、その伝統を正しく受け継いでいく人を得なければ、だんだんに衰微していつてしまう」等々。これは、まさしく国が掲げている中核的人材育成のことを指していると感じています。

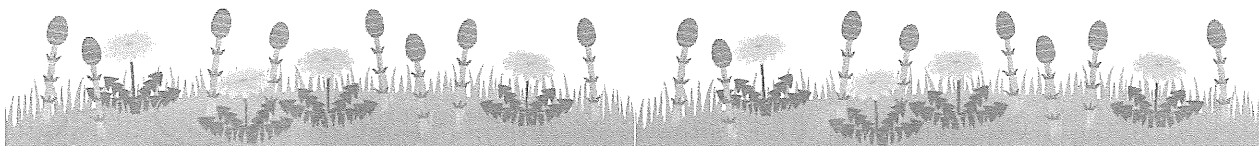
支援の現場で、コア（核）的な存在になるためには、まず専門性を身につけねばなりません。その専門性とは“知識”、“技術”、“福祉のこころ”の3つが揃っていなければ意味がありません。とりわけ“福祉のこころ”は大切に、単なる優しさや思いやりではなく、常に利用者に寄り添い、状況に応じた気配りができることです。そして、その専門性を持って他のスタッフを導いていける人材が育つことで、そこに伝統が育まれ、信頼できる法人・事業所へと成長していくとともに、スタッフによる不適切な支援やメンタルダウンも無くなって

いくと信じています。

最後になりましたが、4月1日に辞令交付を行いました。今年度も1名の新卒者を迎えることができほっとしています。6年連続で計12名の新卒者へ辞令を手渡せたこととなります。この灯を絶やさぬようスタッフ一同励んでいく所存です。



辞令の後、新卒採用者と

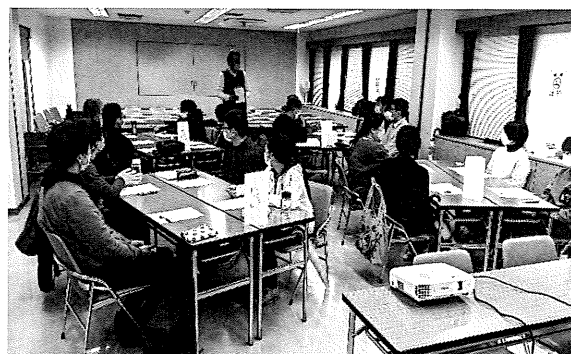


注目のコミュニケーションスキル
アサーションを学びました

法人ハラスメント研修

と き：令和 6年 2月29日

ところ：池田カルチャープラザ

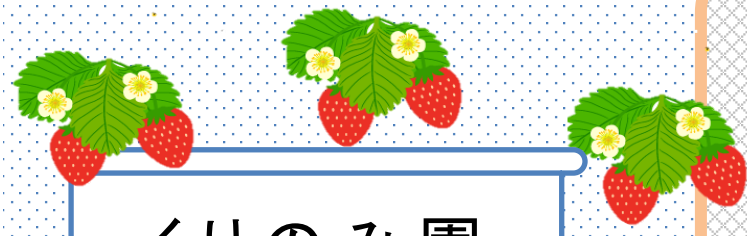


若い女性の絵だけど、老婆の絵にも見える！ 板チョコみたいな四角形の集まりの絵だけど、丸い形も見える！！ トリックアートを使ったモノの見え方のパートでは大いに盛り上がりました。

2月の終わりに法人スタッフ向けにハラスメント研修を実施しました。今年度の講師はオフィス今岡の今岡まゆみ様にお願いして、「自分も相手も大切にできるコミュニケーション」～ハラスメントは絶対しない～と題して、コミュニケーションスキルを通じたより良い職場づくりについて学びました。

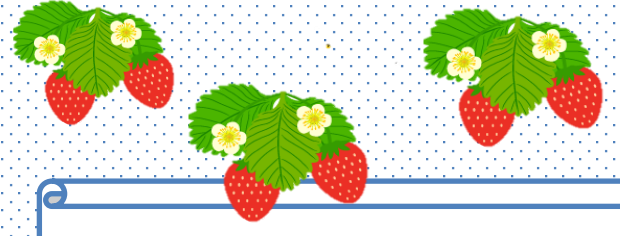
冒頭のトリックアートでは、ものの見方は一つじゃなく、他の人が見ると違うように見えるということを知りました。このことから、人と接する時は自分の想いだけでなく、相手との会話のキャッチボールの中で、お互いが理解を深め合うための会話表現がとても大切だと教わりました。講師はこれを自分も相手も大切にできるコミュニケーション（アサーション）と呼びます。

人間関係で苦勞する人が増える中、世の中に広くアサーションの考え方が広まれば、ハラスメントにはつながらないのでは？と感じられる研修会でした。



くりのみ園

事業所めぐり



セブン&チェリー作業所



園のまわりの
さんぽ風景です

ポッチャ大会に
参加しました



坂道
登りきり
ました!



行っしゅもあ



えいっ!

とあっ!



ポッチャとは
ジャックボールという白い球をめ
がけて赤・青それぞれ6球ずつ
投げてどれだけ近づけることが
出来るかを競うゲームです。

職員コラム

人のあたたかさ ～スタッフ同士の支えあい～

くりのみ園 支援員 小林 久留海

入職し、入所施設のくりのみ園に配属されてから2年目を終える3月。ある日のお仕事中に上司から「職員コラムを書いてみない？」と声をかけられました。なかなか無い機会だと思ったのと、私自身、文章を書くことは苦手ですが、普段から思いを記すことは大好きなので、自分の気持ちを整理しながら綴っていこうと思います。

入職後、私が配属されたのは入所施設のくりのみ園です。利用者の方の生活を24時間365日、日々支えることが主な役割です。そのため、利用者の方にとって安心できるお家であることが大前提です。

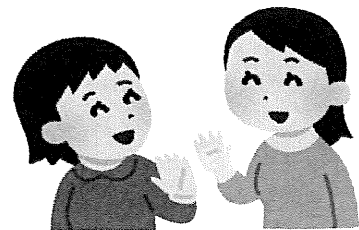
2年目を終え、現場に入るたびに今日はどんな利用者の方の様子を発見できるのかと考える余裕と、どんな方略があるのだろうか、そういった思いが少しずつ出てきました。でもそう思えるまでには、長い長い葛藤がありました。

入職したての1年目の春。不安と期待を胸に入職しましたが、利用者の方との出会いに私は衝撃を受けました。服を濡らす、大声で叫ぶ、ものを壊す、人を叩く、強度行動障がいと言われる利用者の方との出会いはほぼ初めてでした。

生活棟の中でいろんなことが起きる現場…“何から手を付けていいかわからない”。私が思い描いていた安心できるお家のイメージとはかなり程遠く、私の頭はパニックでした。そのため、ちょっとした物音、匂い、五感を研ぎ澄ましながら利用者の方1人1人に何が起きているか把握していかなければなりません。

毎日毎日、いろんなことがあらゆる場所から聞こえ、目に入ってきます。思い悩み、考え込む日もありました。

そんな時、入職したての私にいろんなスタッフさんが声をかけてくれました。しんどい顔をしているつもりも、泣いている表情も出していなかったと思いますが、今思えばきつと張り詰めた表情をしていたのだと思います。



「無理はしたらあかんで、ほどほどにね」と温かい言葉をかけてくださりました。意識して声をかけてくださったのではなく、何気ない一言だったと思います。その言葉が私にとってかなり救われました。

また、他事業所のスタッフさんも、気にかけてくださり、「最近どう、大丈夫？」と声をかけてくださります。事業所を超えて、気にかけてくれる四幸舎和会に感動し、温かい気持ちに涙が止まらなかったことを鮮明に今でも覚えています。

人を大切にするそんな職場であると実感したと同時に、こんなありがたい場所で働けていることに今も感謝の気持ちでいっぱいです。

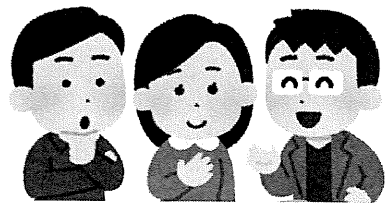
ただ、現場に対しての不安感は抜けませんでした。その時は心配性なところもあり、予測してあんなことがあったらどうしよう、と考える日々に休みの日も頭から抜けないこともありました。ただし、そのことは職員の困りごとではなく、利用者の方が困っている事と、自分の気持ちと視点しか考えていなかったことに気づきました。今では、“くよくよ考えていても仕方がない”、と温かい職場であるこの環境に感謝し、出会った利用者の方が安心して充実した生活を送ってもらうことが、支援員としての役割である、と思い直しました。

今に至っても、利用者の方の支援のことにに関して、どうしたら良いか悩むことも多いです。安心して充実した生活を送れるためにまだまだ出来ることはたくさんあります。私たち支援員が、アプローチする方略によって利用者の方の行動が変わり、生活が豊かになっていくかもしれません。いろいろ支援員が頭のなかで考え、試していくしかない、この温かい職場で働けていることに感謝し、今以上に良い支援員になります。

今年の4月から、私も入職して3年目になります。採用委員のメンバーとして携わっていた内定者の方も入職され、さらに先輩の立場になります。採用して終わりではありません。今からが本番です。

私自身が受けてきた温かい雰囲気と配慮を新しく入職してこられるスタッフさんに受け継いでいきたいです。決して一人で抱え込まないよう、四幸舎和会を選んで働けて良かった、そう思える雰囲気をつくりあげる職員の一員でありたいです。

それが利用者の方の生活の質の向上にも
つながっていく事を願って。



スタッフより一言

小林さんが入職した令和4年の4月1日から早いもので2年経過しました。当時、心配性の親のような目線で“新生活は大丈夫だろうか”“上手く仕事の人と馴染めるだろうか”などと気をもんだりしていたのですが、今ではすっかり頼りがいのある支援員として成長しました。

小林さんの良さは利用者のことを大事に考える事です。度々、利用者の気持ちになって泣いている姿を見かけました。加えて、同じスタッフを尊重して接している事です。

この2年間、支援員としての未熟さを感じるたびに「もっと支援の勉強がしたいです」と利用者の困りごとを解決したい気持ちを強く訴えてきていました。

そういった姿を見続けてきて、仕事に打ち込む姿勢は同じ職場で働く者として心強く、とても素敵に感じています。

私は何かをやり遂げるのは『性格』が大事だと思っています。小林さんは優れた性格の持ち主です。きっと大成する日がやってくると確信しています。そんな想いを持ちながらこれからも一緒に温かい職場づくりをしていきましょう。

くりのみ園サービス管理責任者 樹 宣明

新人職員紹介



くりのみ園

支援員 堀田 ^{あすか} 彩鈴花

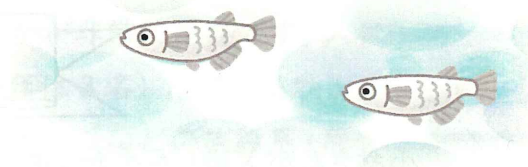


4月より入職した堀田彩鈴花と申します。
今年の新人は私一人なので、気を引き締めて頑張っていきます。
利用者の方の日常生活の一助になれるよう日々努力しますので、
どうかよろしくお願いいたします。



寄付紹介

- Shikousyaサポートクラブ様 ¥308,000
- 佐向紀子様 ¥10,000



ひとこと♪

皆さんは新しい年度、新たにチャレンジしよう!って考えていることありますか?

と書き始めましたが、何も考えていない私。

何かないかなと考えていたら、ふと新年の時に、「今年は毎月1冊本を読むぞっ!」と電子書籍のサブスクを勢いよく申し込み、1月早々に1冊読み終えましたが……。まだ1冊しか読めていないことに気づきました!もう三冊は読めているはず💧

ということで「4月から毎月読む!」と気持ち新たにした次第です。本を読むことって減りましたよね。気づいたらスマホを触っています。本を読めていないのは忙しいからではありません。スマホをいじっているからです。反省。

くりのみ園 支援係長 濱 智生